

所在地：目黒区目黒本町 6 - 7 - 15 東急目黒線 西小山駅 徒歩 10 分

学校名： 向原小学校		作成年月日：H.12.01.25	調査日：H.16.07/20.7/23
施設タイプ		地上シート型	
環境概況	植 物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年の除草によって、高茎のコガマやスイレンの抑制は効果があったが、除去が必要なタテバチドメグサは再度繁茂しており、数回をかけて除去作業を継続する必要がある。 ・ 水面にアサザ、ヒルムシロ、トチカガミは適度に繁茂しているが、水際のセリ、カンガレイ、サンカクイ、エゾノサヤヌカグサ、デンジソウなどは、タテバチドメグサの勢いに生育範囲の制約を受けている。 	
	動 物	<ul style="list-style-type: none"> ・ メダカ及び稚魚を多く確認した。 ・ シオカラトンボの飛来やヤゴの抜け殻を確認した。 	
	水 質	<ul style="list-style-type: none"> ・ 透明度があり、良好である。 ・ 給水は、当番の児童が行っている。 	
	周辺環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 池周りは踏圧により裸地化するとともに、崩れてきている部分があり、草本の生育環境が失われている。 ・ 校舎側の樹木（サクラ、ハギなど）が伸長し、日陰になりかけており、適切な剪定が必要になる。 	
	土 壤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 崩れ落ちている水際の泥は、補充が必要になっている。 ・ 昨年度の泥上げ等の作業により、水深は全体的に確保され、深い部分で 50cm 程度は確保している。 	
活動状況	管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続して 4 年生が担当し、毎日朝昼放課後に環境調査（水温、気温等）、植物調査（生育状況）、動物調査（確認した生きものの記録）を行っている。 	
	管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教諭と児童により適宜実施されているが、7月に水面の確保及び育成密度の適正を目的として、児童参加による全面的な水草の除去作業を行った。 	
	利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 年生による定期的な観察とともに、生活科、理科、総合学習の授業の中で、各学年により利用されている。 	
今後の予定・計画		<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察・管理活動は継続して 4 年生が行うことになっている。 	

作成後の主な活動経過

年月日	活動内容	参加形態
H. 12.01.25	池の作成	5 年生
04. ~	観察の記録及び掲示	4 年生
13.11.17	研究発表	4 年生
14.	4 年生による継続的な観察の記録及び掲示	4 年生
15.	4 年生による継続的な観察の記録及び掲示	4 年生
07.	図鑑、インターネットでの生きもの調べや田の学校ビオトープの学習 草取り、泥上げ、泥踏み	
16.	4 年生による継続的な観察の記録及び	4 年生
08.	草取り作業の実施	4 年生
	クロメダカの観察・飼育	5 年生

調査時（平成15年6月）



水面が見えるのは橋部分のみであり、適度な草取りが必要になっている。

草取り作業後（平成15年7月）



水面を覆う植物は一部分残り7割ほどを除去して水面を確保した。

調査時（平成16年7月）



昨年の草取りでコガマやスイレンの抑制は効果が出ている。



タテバチドメグサが池全域に繁茂して、水際の多様な植物の生育を抑えている。

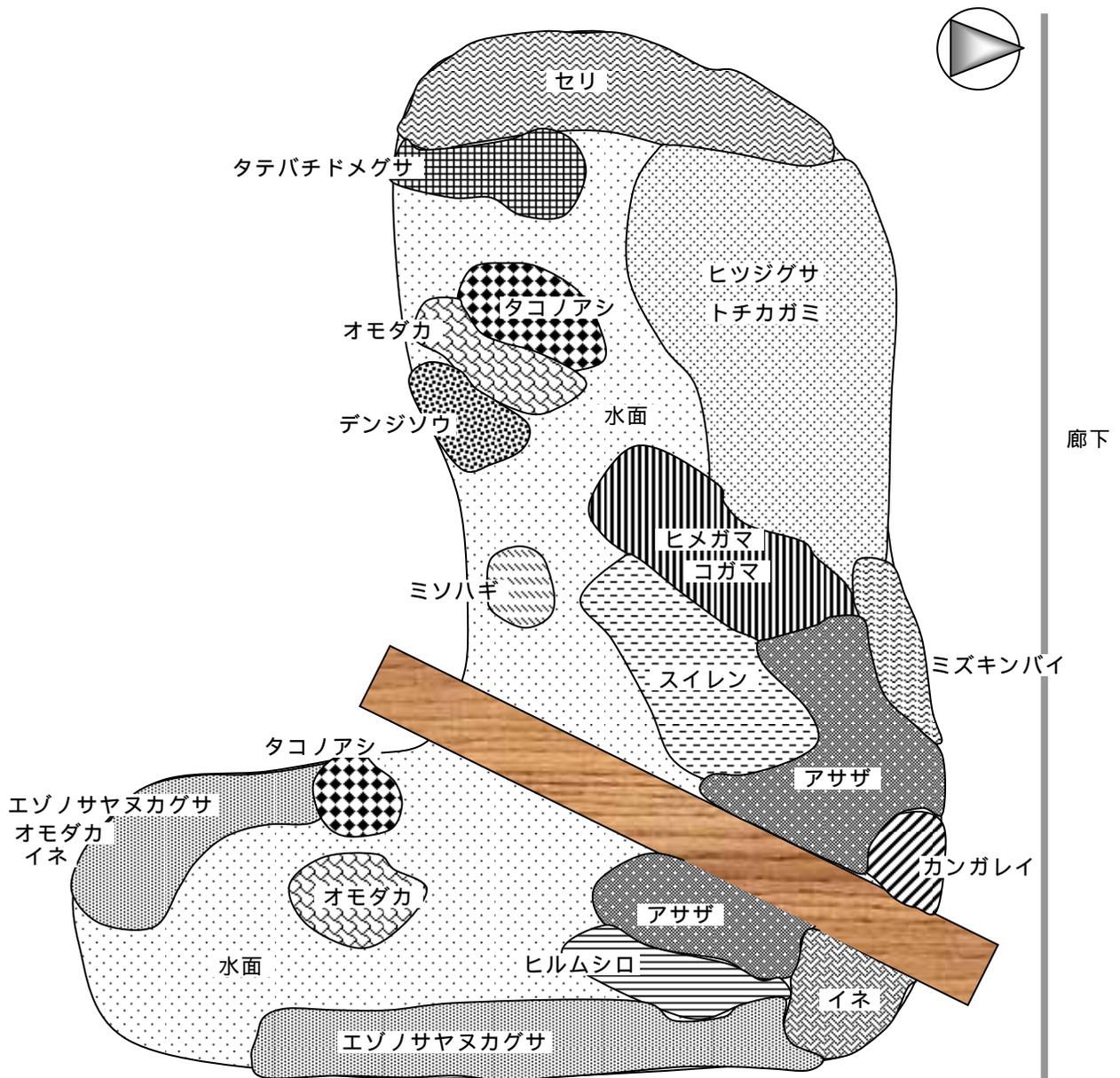


水面では、トチカガミ、アサザが広がり、花も楽しめる環境になっている。



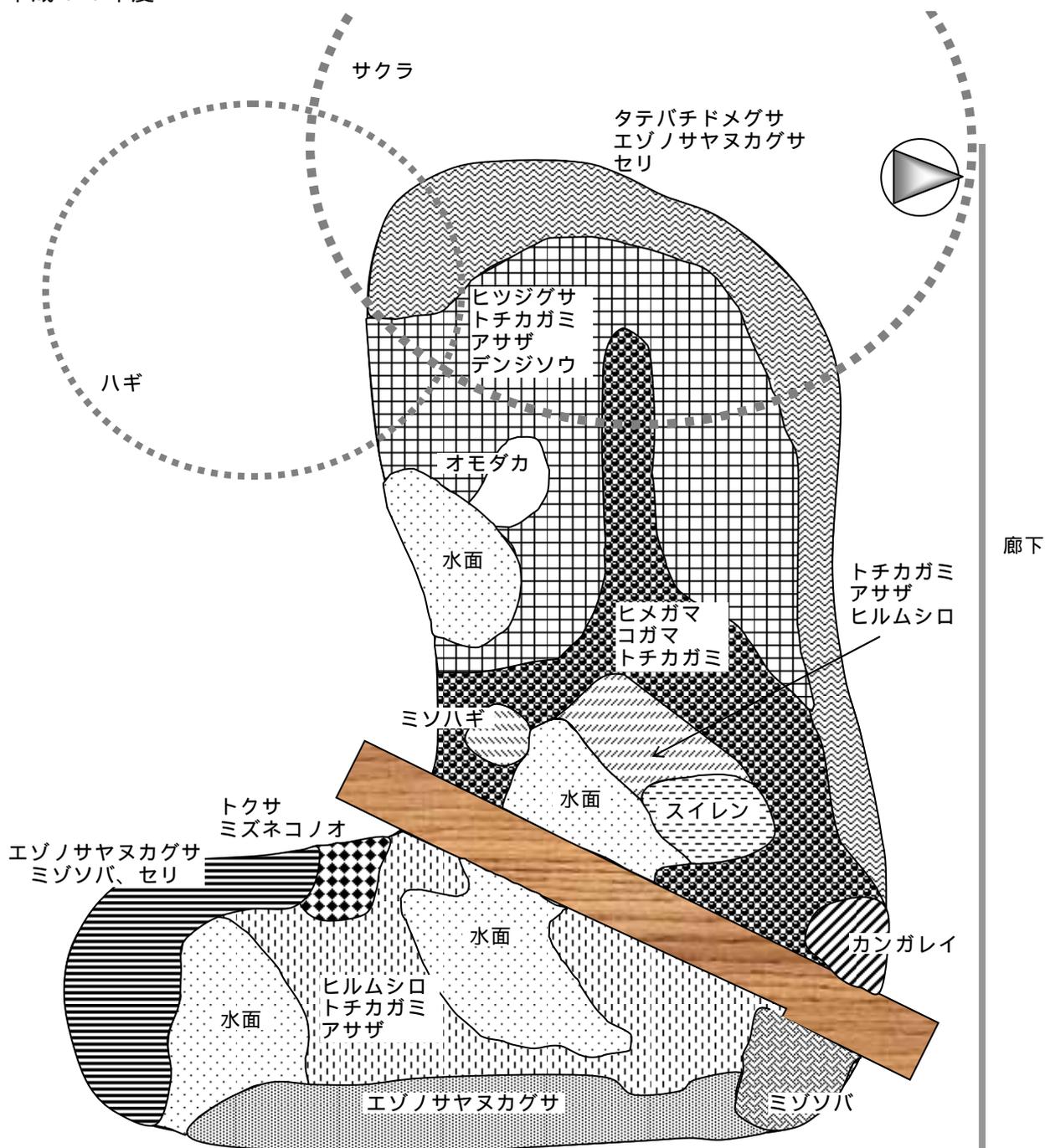
キアゲハの幼虫が確認された。

向原小学校
<平成13年度>



管理が良くされ、今では珍しい多くの水辺植物が生育している。ただし、水面を覆いやすくなるため、トンボ等が水面を見つけやすくするためには、水面を常時確保するためのきめ細かな管理が必要である。

<平成14年度>

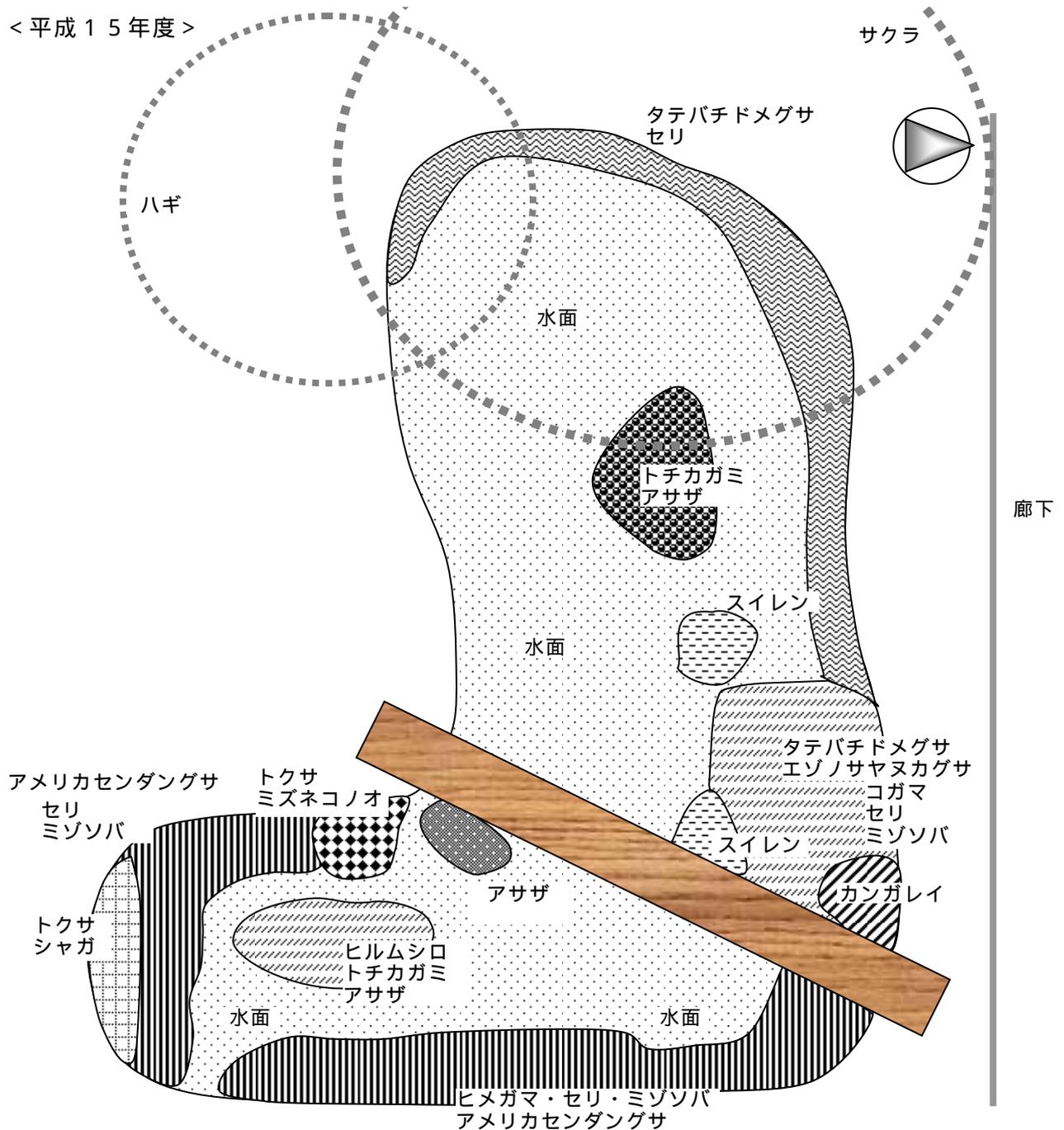


前年に比べ、コガマやトチカガミ、タテバチドメグサなどが生育範囲を広げ、逆にミズキンバイやタコノアシなどが見られなくなった。もともと植物種数が多い環境であったため、出現種数が多少減っても問題はない。

しかし、優占している三種(コガマやトチカガミ、タテバチドメグサ)については、水面を覆う状態になっているため、水面を確保するため、ある程度は取り除く必要がある。

向原小学校

<平成15年度>

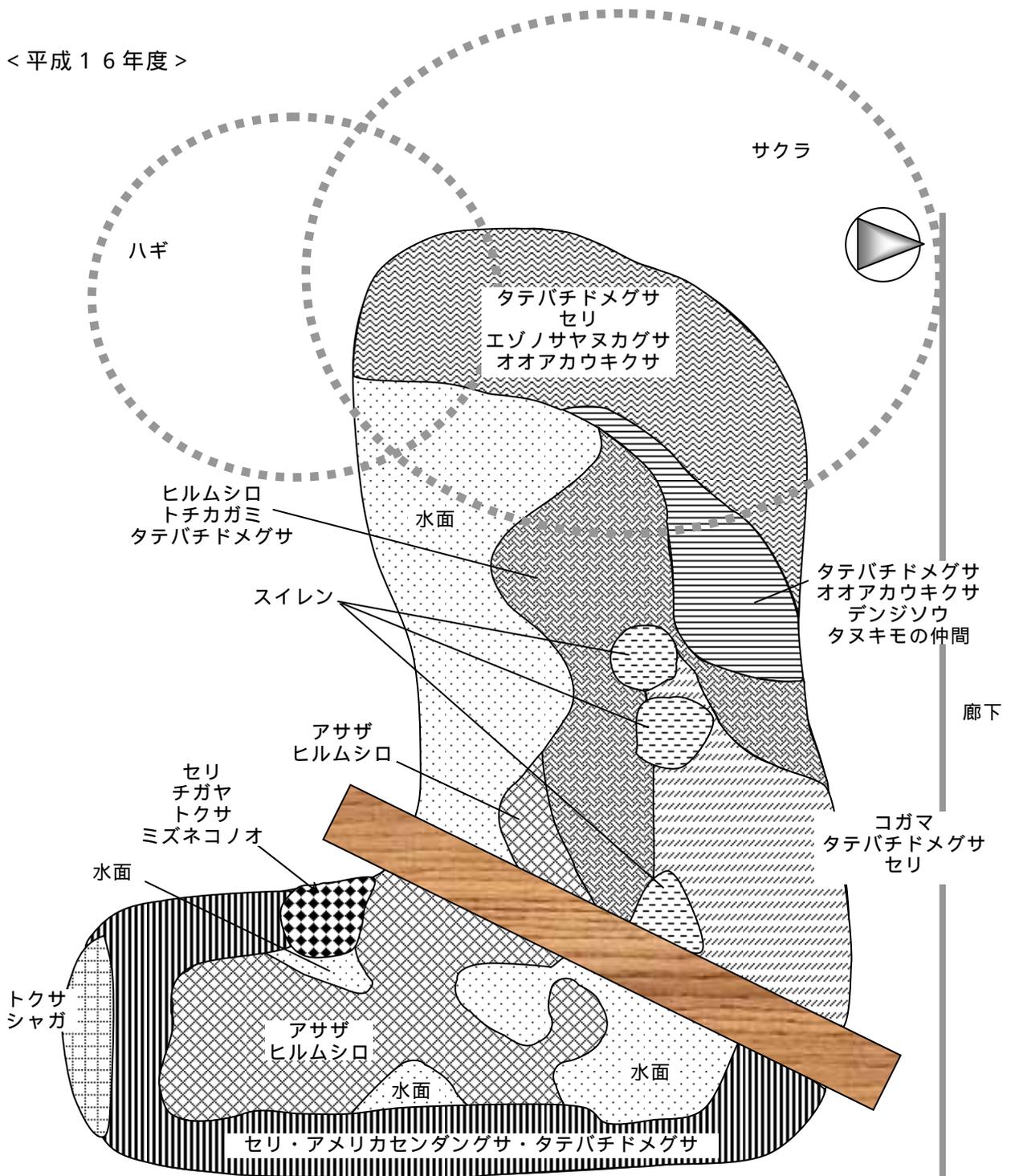


水際には、タテバチドメグサなどが生育範囲を広げ、セリ、ミゾソバの生育範囲を抑制している。水面は前年同様にトチカガミ、アサザ、コガマが優先し、水面が狭くなっているほとんど確認できない程度となった。

そのため、池に入って草取り作業を行い、中央部にコガマ、トチカガミ、アサザなどの在来種を残し、外来種のタテバチドメグサは除去することとした。デンジソウ、ミズネコノオなどの珍しい植物も減っているが、環境が良好であるため、再び分布範囲を広げる可能性が高い。

この作業によって、水面の7割、水深も確保され、全面的な改善作業が実施できた。今後は、生育種の選択を実施しながら、水面の維持を適宜実施していくことが必要になる。

<平成16年度>



昨年除去作業を行ったが、タテバチドメグサの繁茂が著しく、セリ、ミゾソバなどの植物を被圧しているため、全面的な除去が必要になっている。

水面は、トチカガミやアサザが優先し、コガマが適度の生育範囲に収まっている。他に、デンジソウ、ミズネコノオなどの珍しい植物も減っているが、環境が良好であるため、タテバチドメグサを除去できれば、再び分布範囲を広げる可能性が高い。

一部、土やシートが露出している場所があり、土を補充することとした。